

教材活用例(2) 「強いものは美しい」



—日本人初の金メダリスト おだみきお 織田幹雄—

〔小学校高学年 主題：夢を実現させるために 内容項目：1の(2)〕

(1) 開発資料の実際

ア 素材の説明

(ア) 素材の概要

〈素材 —おだみきお織田幹雄さん— について〉



晩年の織田幹雄さん

織田幹雄さんは、日本人で初めてオリンピックで金メダルを獲得した。そこに至るまでには、大きな怪我、記録の伸びない時期など幾多の困難を経験してきた。しかし、それに負けることなく、陸上一筋に努力を続け、現役を退いた後も、生涯陸上に深くかかわり、日本陸上界に大きな功績を残された。

明治38年 (1905年)	広島県海田市町(現安芸郡海田町)で誕生
大正13年 (1924年)	第8回オリンピックにて、三段跳び6位入賞
大正14年	早稲田大学入学
昭和3年 (1928年)	第9回オリンピックにて、三段跳びで優勝
昭和6年	大阪朝日新聞社のスポーツ記者となる
昭和7年	第10回オリンピックでは、足の故障で予選落ち
昭和39年	第18回オリンピック(東京)の日本陸上チーム総監督
昭和42年	第1回織田幹雄記念陸上大会の開催(広島)
平成10年 (1998年)	享年93歳で没

織田幹雄さんの経歴

(イ) 4コマ絵

史実に基づいて経歴を整理した。そして、幹雄さんの考え方や生き方が表れ、人間的魅力が伝わるエピソードを中心場面とし、4場面の構成とした。

	1	2	3	4
場面のイメージ絵				
絵の説明	中学校時代、オリンピック選手の講習会に参加した幹雄さんは、陸上競技と出会う。「練習すれば日本を代表する選手になれる。」という言葉を引きかけにどんどん陸上競技にのめりこんでいく。	人一倍努力を続ける幹雄さんはやがていくつもの大会で優勝を重ねる。 やがて、日本を代表する選手になった幹雄さんは、オリンピックにも出場し、世界第6位に入賞する。幹雄さんは、次のオリンピックに向けて、大きな目標を立て、今まで以上に努力を続ける。	オリンピックに向けて、努力を続ける幹雄さんだったが、思うように記録が伸びない。 それどころか、大きな怪我に見舞われてしまう。 最初は大きな期待をしていた周りの人たちも限界説をささやき始める。練習を終えた幹雄さんは「今日も記録が伸びなかった。」とつぶやき、一人夕日の前にたたずむ。	新たな練習方法に気付いた幹雄さんの記録がまた伸び始めた。2度目のオリンピックに出場した幹雄さんは、日本人初の金メダルを獲得した。

イ 資料の解説

【作成の要点】

海田小学校の児童に、「学校の自慢はなんですか。」と問うと、ほとんどの児童が、「織田幹雄」を挙げる。児童にとって「織田幹雄」は、身近な存在であり、自分たちの誇りでもある。このことから、児童の心に響き、魅力的で多様な授業を展開するための素材として最適であると考えた。

織田幹雄さんの「日本人初の金メダリスト」という栄光は誰もが知っている。しかし、その栄光を勝ち取るまでには、多くの人に知られていないチャレンジ精神、力強い生き方、苦悩などがある。それらに焦点を当て、内容項目を不撓不屈〔1の(2)〕として作成することとした。

織田幹雄さんについて、書籍、インターネット、インタビュー等から様々な情報を得ることができた。それらをすべて伝えたいと思い、得た情報をできるだけ文章に盛り込んでいった。何度も推敲する中で、何を一番子どもたちに伝えたいか考え、焦点を絞り、中心場면을膨らませ、他の部分を削る作業を行った。

地域教材を作成する中で、織田幹雄にまつわる実際に使用したものに出会った。本資料の表題でもある「強いものは美しい」という座右の銘を記した直筆の色紙、試合などで使用したスパイク、試合や練習の様子を記録したノート等が残っていた。それらを授業の中にうまく取り込むことができるように、実際の授業を想定しながら作成した部分もある。



【心に響くちょっといいはなし】

今回の作成にあたり、いろいろな方と織田幹雄さんに関する話をする機会があった。海田町教育委員会の方、地域の方、本校校長、昔海田小学校に勤めておられた方たちの話を聞く中、想像していた以上に織田幹雄さんに対する熱い思いが伝わってきた。海田小学校の先輩とか、日本人初の金メダリストということだけでなく、織田幹雄さんの生き様に対して、誇りをもっておられた。個人的に記録や情報を収集されている方。「織田幹雄センベイ」を販売されている店。海田町全体の熱い思いを授業や資料を通して、子どもたちに伝えることができたならなんと素晴らしいことだろうと考えた。私自身も取材や資料収集、資料の作成を通して織田幹雄さんの生き様に魅了され、いつしかファンの一人になっていった。

ウ 資料全文

強いものは美しい ー日本人初の金メダリスト 織田幹雄ー

海田町立海田小学校には、織田幹雄さんのオリンピック金メダル受賞を記念して、15メートル21センチの長さのポールが立てられています。



明治38年、広島県海田市町（現在の安芸郡海田町）に生まれた織田幹雄さんは、小さいころから野山を駆け回る元気いっぱいの子どもでした。

運動が大好きだった幹雄さんが陸上に出会ったのは広島一中（現在の広島県立国泰寺高等学校）の二年生の時でした。ある日、教官から、第7回オリンピックに出場した野口源三郎さんの講習会に参加するようにすすめられました。幹雄さんの当時の身長は、155センチでしたが、なんと高跳びでは、自分の背丈より高いバーを跳び越えたのです。それを見ていた野口さんが、「小さいのによく跳ぶね。君は練習すればきっと日本の代表になれるぞ。」と、声をかけてくれたのです。幹雄さんは、顔を真っ赤にして聞いていました。

そして、中学四年生の新学期、サッカー部をやめ、新しくできた徒歩部（陸上部）に入部しました。できたばかりの広島一中の徒歩部には、指導者もコーチもいませんでした。幹雄さんは、自分で本屋を歩き回り、数少ない跳躍に関する雑誌を参考に自分で工夫しながら練習を続けました。昼休みの鐘が鳴るとすぐに運動場を走り、放課後は最後まで練習していました。友だちが

「もう帰ろう。」

と言っても、

「もう少しやってから帰る。」

と言って断りました。

誰もいなくなった運動場で、黙々と一人で練習を続けました。気がつくとも一番星が輝いていることもたびたびでした。休みの日も裏庭の小さな砂場で朝から晩まで練習に励みました。

やがて幹雄さんは、いろいろな大会の「走り高跳び」「走り幅跳び」「三段跳び」などで優勝を重ね、注目されるようになりました。

そして、第8回オリンピックに出場し、三段跳びで14メートル35センチの日本新記録を出し、日本陸上史上初の世界第6位入賞を果たしました。「すばらしい。」と誰もがその入賞を喜んでくれました。オリンピックが終わって、幹雄さんはすぐに次のオリンピックに向けて目標を立てました。

さらに幹雄さんの厳しい練習の日々がスタートしました。しかし、記録はなかなか思うように伸びませんでした。それどころか練習を続けるうちに、何回もひどい怪我をしてしまいました。

ある時、日本代表選手団の監督に、

「君、この足の怪我はひどい。放っておくと、一生陸上ができなくなるぞ。」

と、言われたこともありました。

やがて新聞などで「織田はもうこれ以上記録は伸びない」と書かれるようになりました。郷里の広

島に帰れば、

「もう織田はだめなのでは。やめたほうがいいぞ。」

と、まわりの人からのささやきが幹雄さんの耳にも届くようになりました。それでも幹雄さんは黙々と練習を続けました。

「今日の練習も・・・やっぱり記録は伸びなかった・・・。」

沈んでいく夕日を前に一人たたずみ、頭をかかえこむ日が続いていました。

それでも次の日になると、幹雄さんは、フィールドに立っていました。

「もう一度基本に戻ってみよう。」

改めて自分の練習方法、跳び方を振り返ってみました。

「今までのフォームは、外国の選手の物まねにすぎなかった。勢いにまかせて跳ぶのではなく、足の裏で大地をたたくと同時に、上に向かって伸びあがろうとしなければならない。伸びる力があってこそ“本物”の跳躍ができる。」

と考えました。それからは、上に向かって跳び上がる練習を繰り返し行いました。町で木の枝に跳びついたり、よその家の高い軒先にパッと跳び上がって触れたりしたものです。「高いもの」を見つけては跳びつき、自分の身体に跳躍力をつけることだけを考え、練習を続けました。

そして、ひと冬越して迎えた昭和2年、幹雄さんの記録がまた伸び始めました。

日本記録で優勝した幹雄さんは、再び、念願のオリンピックに出場を果たすことができたのです。

1928年7月28日、第9回オリンピック・アムステルダム大会の幕は切って落とされました。

大会6日目、(今まで誰にも負けないだけの練習をしてきたのだ。あとは全力を尽くすのみだ。)と、思いながら窓の外を見ると、輝く太陽が昇っていました。

いよいよ得意の三段跳びです。今までの練習が頭の中をよぎりました。幹雄さんは渾身の力をこめて跳びました。15メートル21センチ。その後、その記録を抜く選手はあらわれませんでした。

アムステルダムの真っ青な大空にひらめく国旗は、太陽に照らされて光り輝いていました。それは誰も予想しなかった日本で初めての金メダルでした。大歓声の中、金メダルを手にした幹雄さんは、広い競技場に一人立っていました。そのほほには一筋の涙がこぼれていました。

その後、日本の陸上競技の発展に力を尽くされた幹雄さんは、「強いものは美しい」という言葉と海田小学校の運動場のあのポールに思いをたくし、93歳でなくなられました。



【参考資料】

「織田幹雄 わが陸上人生」(日本図書センター)
「陸上競技ヨーロッパ転戦記 日本は強かった」
(有斐閣アカデミア)

エ 授業展開例 ー学習指導案（略案）ー

幹雄さんの人間的弱さとそれに打ち勝つ強さを対比させた展開A
 ～ 実物を授業に取り入れた指導を通して ～

- (ア) 主題名 夢を実現するために 1ー(2)
- (イ) ねらい 挫折を乗り越え、陸上の練習に打ち込む織田幹雄さんの思いに共感することを通して、目標や夢をもつことの大切さを知り、夢を実現するために努力し、継続して取り組もうとする態度を養う。
- (ウ) 資料名 「強いものは美しいー日本人初の金メダリスト 織田幹雄ー」
- (エ) 学習指導過程

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点 (☆評価の観点)
導 入	1 織田幹雄さんについて主な経歴を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・海田小学校出身なんだ。 ・オリンピックで金メダルをとった。 ・掲揚ポールにはそんな意味があるんだ。 ・こんな長さを跳んだんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幹雄さんの偉大さ、素晴らしさを実感する。 ○ 掲揚ポールの高さと同じ長さのひもを提示する。
展 開	2 資料「強いものは美しい」を聞いて話し合う。 (資料は前半と後半に分けて提示する)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野口さんにほめられ、幹雄さんは顔を真っ赤にしてどんなことを思っていたでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック選手にほめられ、うれしい。 ・跳ぶことは楽しい。 ・これからも続けたい。 ○ 思うように記録が伸びなかった時、幹雄さんは何を思っていたでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・いくら練習してもだめかもしれない。 ・もう陸上はやめよう。 ・やめたら楽になる。 ◎ 幹雄さんが練習を続けようと思ったのはなぜだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・幹雄さんには大きな夢があるから。 ・陸上が好きだから。 ・きっと記録は伸びると自分を信じている。 ・ここでやめると後悔するから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幹雄さんが陸上と出会った時の、高揚する気持ちを考えさせる。 ○ いろいろな要因から、記録が伸びず、つらい日々を送り迷っている幹雄さんの思いを感じ取らせる。 ○ なぜ幹雄さんは続けたのか、大切にしようとしたことについてしっかり考えさせる。 ☆ 実物を取り入れた展開とすることで、苦しさを乗り越え、練習を続ける幹雄さんの思いに共感することができたか。
	3 自分の経験を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ がんばって続けていることはありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の練習。 ・習いごと。 ・毎日の自主勉強。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ なぜ続けることができたのか理由を語ったり、その時の自分の心を思い起こさせる。
終 末	4 「強いものは美しい」という言葉について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幹雄さんのいう強さとはどんなことだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・心が強いこと。 ・くじけずやりとげること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校にある直筆の色紙を提示する。 ○ ワークシートに記入させる。

努力が達成感に結びつくことを中心場面にした展開 B

～ 達成感を感じる体験を導入と終末に ～

(ア) 主題名 喜びは努力の先に 1－(2)

(イ) ねらい 挫折を乗り越え、日本人初の金メダリストになった織田幹雄さんの思いに共感することを通して、努力した先に「夢の実現」があることを知り、継続して取り組もうとする態度を養う。

(ウ) 資料名 「強いものは美しい—日本人初の金メダリスト 織田幹雄—」

(エ) 学習指導過程

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点 (☆評価の観点)
導 入	1 運動会のビデオを見て感想を出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに拍手をもらってうれしかった。 ・友だちと協力できた。 ・6年生としていろいろな係をがんばった。 	○ 自分たちの運動会での様子を見ながら、自由に感想を出し合う。
展 開	2 資料「強いものは美しい」を聞いて話し合う。 (資料は前半と後半に分けて提示する) 3 自分の経験を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野口さんにほめられ、幹雄さんは顔を真っ赤にしてどんなことを思っていたでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック選手にほめられ、うれしい。 ・跳ぶことは楽しい。 ・これからも続けたい。 ○ 思うように記録が伸びなかった時、幹雄さんは何を思っていたでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・いくら練習してもだめかもしれない。 ・もう陸上はやめよう。 ・やめたら楽になる。 ◎ 日本初の金メダリストになり、競技場で涙を流す幹雄さんの頭にはどんな思いがめぐったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・金メダルが取れた。 ・胸を張って日本に帰れるぞ。 ・陸上を続けてよかった。 ・苦しいことがあったからこそ、金メダルが取れたことがうれしい。 ○ がんばって続けていることはありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の練習。 ・習いごと。 ・毎日の自主勉強。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幹雄さんが陸上と出会った時の、高揚する気持ちを考えさせる。 ○ いろいろな要因から記録が伸びず、つらい日々を送り迷っている幹雄さんの思いを感じ取らせる。 ○ 金メダルを取ったという達成感を感じ取らせる。 ☆ 達成感を感じる体験を導入で活用することで、苦しいことを乗り越えメダルを手にした幹雄さんの思いに共感することができたか。 ○ なぜ続けることができたのか理由を語らせたり、その時の自分の心を思い起こさせたりする。
終 末	4 もう一度運動会のビデオを見る。	○ もう一度運動会のビデオを見てみよう。	○ 最初に見たビデオと最後に見たビデオの違いを感じさせる。

(カ) 板書例

◎ 幹雄さんが練習を続けようと決めたのはなぜだろう。

「強いものは美しい」

織田幹雄さんが残された言葉

場面絵①

場面絵②

織田幹雄さんの影の絵
(表情が分からないように)

○ 思うように記録が伸びなかった時、幹雄さんはどんなことを思っていたでしょう。

○ 野口さんにほめられ、幹雄さんは顔を真っ赤にしてどんなことを思っていたでしょう。

「強いものは美しい」

・海田小の先輩
・日本初の金メダリスト
・海田小のポール

織田幹雄さん

【板書の構成】

キーワードとなる言葉を短冊で用意したり、児童の発言を短い言葉で整理したりして板書する。特に、中心場面では、織田幹雄さんの心の揺れを考えさせるために、表情で判断できないように、後ろからのシルエットで表現する。また、人間的弱さが感じられる意見は下段に、前向きに頑張ろうという思いが伝わる意見は上段に分けて整理する。意見の囲みの部分も色分けして意見の違いを視覚的にはっきりさせる。最後に本資料の一番大切にしたいキーワードである「強いものは美しい」という言葉を赤ではっきり板書し、児童に「強さ」の意味を考えさせる。

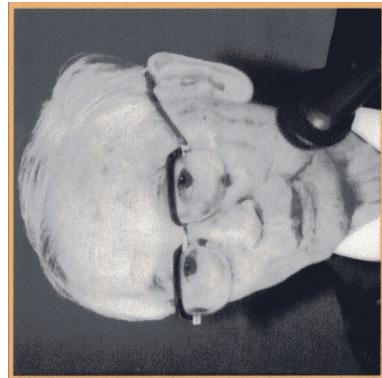
「強いものは 美しい—日本人初の金メダリスト 織田幹雄—」

年 組 ()

◎ 織田幹雄さんは、「強いものは美しい」という言葉を残されました。

幹雄さんのいう「強さ」とはどんなことだろうか。

「強さ」とは、



(2) 活用のポイント

本資料では、海田町出身で日本人初の金メダリストである織田幹雄さんを題材として取り上げている。児童の実態として、ほとんどの児童が身近な存在であり、自分たちの誇りでもあるととらえている。このことから、織田幹雄さんの生き様を自分に引きつけて考えていけるような展開の工夫をしていく必要があると考える。

他市町で活用する際には、児童の実態を十分把握した上で、授業を構想するよう留意することが望まれる。

ア 発問の工夫

ねらいに迫れるように、中心発問を「幹雄さんが練習を続けようと思ったのはなぜだろう。」と設定し、主人公の挫折を乗り越える力強さを感じ取らせていきたい。その中心発問をしっかり考えさせるためには、主人公が悩んだり、苦悩したりしている姿をとらえ、共感させておくことが大切である。

イ 実物の活用

資料をより身近に感じたり、驚きや感動を生んだりするために、織田幹雄さんに関連した品々（直筆の色紙、スパイク、記録ノート等）を授業の中に取り入れて指導を行っていきたい。「百聞は一見にしかず。」で、その品々を通して、幹雄さんの思いや力強い生き方などが伝わると考える。

ウ 題名の工夫

織田幹雄さんの座右の銘である「強いものは美しい」という言葉に着目し、こだわりをもって授業を行っていきたい。そこで、資料名に使ったり、終末にその「強さ」について考えたりするなど工夫した。

エ 書く活動の工夫

最後に、書く活動を取り入れ、じっくり考える場面をつくる。本時の授業を振り返りながら、「強さ」について、自分たちの生活に引きつけて主人公の生き様と重ね合わせながら考えさせていく。

(3) 授業の実際 ―児童生徒の反応を踏まえて― ア 発問の工夫

中心発問の前段階で、「思うように記録が伸びなかった時、幹雄さんは何を思ったでしょう。」という発問をした。多くの児童から、「がんばっているのに」「もう陸上をやめたい」という意見が出され、幹雄さんの苦悩に共感できた。しかし、少数ではあるが、「もう一度がんばってみる」という前向きな意見も出された。どの意見も肯定し、受け止めながら「もう一度がんばってみる」という意見を、次の中心発問につなげた。

中心発問では「幹雄さんが練習を続けようと思ったのはなぜだろう。」と聞いた。児童からは、「陸上が好きだから」「今やめたら後悔する」などが出された。また「高い目標があったから」という意見を出した児童もおり、そこから高学年の指導内容1－(2)「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」へとつなげていった。

幹雄さんの弱さと強さを考えることで、両方の思いを比べることができ、「人間、挫折感や苦しさを感じることもある。でも・・・。」という思いをより強く感じる事ができた。

イ 実物の活用

導入で、幹雄さんの主な経歴を出し合った。その後、実際にオリンピックで金メダルを取った時の記録（15メートル21センチ）と同じ長さのひもを提示した。教室からはみ出るくらいの長さに児童は驚きをもって見ていた。改めて幹雄さんのすごさを感じた場面だった。

中心場面では、毎日の練習の記録や練習方法、大会での記録などが細かに書き記されているノートを提示した。こんなにも細かに、正確に記録されているノートを見ると、陸上への情熱を感じることができ、幹雄さんの思いに迫る発言を引き出すことができた。

終末において、直筆の色紙を提示した。児童は言葉に込められた思いを感じ取ることができた。

ウ 題名の工夫

幹雄さんの座右の銘「強いものは美しい」という言葉を題名に使った。最初、「強いものだけが美しく、弱いものは美しくないのか」という感想もあった。しかし、授業の終末で児童に「幹雄さんがみんなに伝えたかった『強さ』とはなんだと思う。」という問いに、「努力し続けること」「苦しさには負けないこと」「前向きにチャレンジすること」などが出された。結果がよいことだけが強さという意味ではなく、そこに至るまでの生き方に強さ、さらには美しさを感じることができた。

エ 書く活動の工夫

終末に、幹雄さんが「強いものは美しい」という言葉を通して伝えたかった思いを考えた。その際、ワークシートに書く活動を取り入れた。書くことで、本時の授業を振り返りながら、自分の生活と結びつけながらじっくり考えることができた。

<児童のワークシートの記述から>

- ・最初、金メダルを取ったり、大会で優勝したりすることが美しいと思っていた。最後には、結果だけでなく、苦しさには負けないで努力し続けることが美しいと思った。
- ・今に満足せず、常に新しいことに挑戦することが強さだと思う。
- ・まわりの人に何か言われても、自分を信じる心が強さだと思う。
- ・自分はやっと嫌なことがあったら投げ出すことがあったが、幹雄さんのように、負けない心をもてる人になりたい。

(4) 各教科等(体験活動を含む)との関連

児童には、事前に「心のノート」PP. 18-19「わたしの夢」の部分に書き込みを行った。自分たちの今の夢と幹雄さんの夢を比べながら授業を行うことができた。

また、授業前に行われた「運動会」では、最高学年としてどのような運動会にしたいのか、一人一人

が目標やめあてを明確にして取り組んだ。当日だけでなく、それまでの取組も大切に、それをビデオ等で記録に残して振り返りを行った。

授業後の取組としては、3月の卒業式に向けて、一人一人が個人の目標と学年、学級としての目標を設定し、それに向けて何をどのように取り組んでいったらいいかカードや短冊に書いて掲示した。その際、道徳の授業で行った「強さ」や「美しさ」というキーワードを意識させながら行った。

(5) 心のノートの活用

事前に「心のノート」PP. 18-19に自分の夢を記入し、まず、夢をもつことが大切だということを話しかけた。

次に、授業後、P. 16の「夢に届くまでのステップがある」という部分を教室に拡大して掲示し、幹雄さんの生き方と自分たちの生き方を比べながら日々生活が送れるように意識付けをした。

さらに、卒業に向けて、学級活動や総合的な学習の時間等で、PP. 18-19の「目標に向かう道にはいろいろなことがある」の部分を使って学習した。

